

情報公開文書

「炎症性腸疾患及び大腸癌の病態解明に関する研究」 に関する研究のお知らせ

2022 年 7 月 19 日作成 初版

京都大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を得て実施するものです。

1. 研究の名称

炎症性腸疾患及び大腸癌の病態解明に関する研究

2. 対象者となる施設と責任者

京都大学医学部附属病院消化器内科	特定助教	中西	祐貴
兵庫医科大学病院炎症性腸疾患外科	主任教授	池内	浩基
大阪公立大学医学部附属病院消化器外科	病院講師	笠島	裕明

[研究責任者]

中西 祐貴（特定助教）所属：京都大学医学部附属病院消化器内科

住所：〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

TEL：075-751-4319 [内線 4319]

3. 研究の目的と意義

炎症性腸疾患は、消化管に慢性的に炎症を来す原因不明の難治性疾患の総称です。慢性炎症は発がんのリスク因子とされており、炎症性腸疾患に合併する大腸癌は大腸炎関連発癌と呼ばれ、一般的な大腸癌と区別されています。炎症性発癌を含めた大腸癌では、さまざまなシグナル経路に異常を生じることで段階的に発がんすることが知られています。そこで近年、これらのシグナル経路に着目した治療薬が開発・保険適応され、炎症性腸疾患や大腸癌の予後は飛躍的に改善しました。しかし、依然として治療に難渋する症例も存在しており、これらの疾患の病態を解明することで新たな治療薬開発が期待されています。

この研究では、手術標本より作成された病理検体を利用します。診断確定後に残った病理検体からプレパラートを作成し、腫瘍化関連シグナルや炎症に寄与する分子に対する免疫染色を行います。炎症細胞浸潤や腫瘍細胞の浸潤様式の特徴、組織中に発現しているサイトカインや蛋白発現を解析し、炎症性腸疾患及び大腸癌の原因同定や新たな治療標的因子を同定することを目的とします。

4. 研究期間

研究機関の長の実施許可日から 2027 年 6 月 30 日

5. 対象

2005 年 4 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日の間に、京都大学医学部附属病院及び兵庫医科大学病院で、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、ベーチェット病、Cronkhite-Canada 症候群を含む）及び大腸癌に対して手術を施行された患者さんを対象とします。

6. 試料・情報の利用目的・利用方法

炎症性腸疾患及び大腸癌の病理組織プレパラートを京都大学医学部附属病院に集めます。収集したプレパラートに対して免疫染色を行い、シグナル経路やタンパク発現について病理学的及び統計学的解析を行います。

京都大学病院における試料・情報の管理責任者：消化器内科 助教 山本 修司

7. 利用または提供する試料の測定項目

Wnt/ β -catenin や p53、RAS/MAPK、TGF- β /SMAD などのシグナル経路や、IL1B, IL6, IL12B/IL23A, TNF, IL33 などの炎症性サイトカインについて網羅的に免疫染色を行い、発現量を定量します。必要に応じて、上記のシグナル経路やサイトカイン以外についても免疫染色を追加します。また、本研究では対象患者さんの病名（及び病型）、年齢、性別、罹患部位、罹患期間、手術前治療、術後病理組織診断、ステージ分類及び予後（無再発生存期間及び全生存期間）などの診療情報との関連性についても検討します。

8. 参加拒否

参加拒否は自由であり、随時参加の撤回をすることが可能です。それにより不当な診療所の不利益を受けません。参加拒否を希望される場合は、試料・情報の利用を停止しますので、下記にご連絡ください。

9. 研究資金について

本研究は、国（文部科学省や厚労省、日本医療研究開発機構など）からの科学研究補助金及び産学連携による科研費により賄われます。

利益相反については、京都大学利益相反ポリシー、京都大学利益相反マネジメント規程に従い、京都大学臨床研究利益相反審査委員会において適切に審査し

ています。

共同研究機関においても各機関の規程に従い審査されています。

10. 研究の主体及び問い合わせ先（電話番号、氏名など）

ご質問などあれば、遠慮なく下記にお問合せください。

京都大学医学部附属病院消化器内科

（TEL）075-751-4319 （FAX）075-751-4303

担当医師：中西 祐貴

京都大学医学部附属病院 臨床研究相談口

（TEL）075-751-4748 （E-mail） ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp